



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年10月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社イチネンホールディングス

コード番号 9619 URL <https://www.ichinenhd.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 黒田 雅史

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 総合企画部長 (氏名) 井本 久子 TEL 06-6309-7890

四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 2022年11月30日

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け決算説明会、並びにWEB会議の開催を予定）

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	61,772	4.6	4,916	4.1	5,138	7.2	3,226	5.3
2022年3月期第2四半期	59,047	8.9	4,721	31.8	4,791	31.9	3,064	312.3

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 3,173百万円 (6.5%) 2022年3月期第2四半期 2,981百万円 (121.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	134.54	134.41
2022年3月期第2四半期	126.41	125.97

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	170,592	46,316	27.1	1,925.11
2022年3月期	168,507	43,673	25.9	1,819.55

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 46,304百万円 2022年3月期 43,574百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	23.00	—	23.00	46.00
2023年3月期	—	25.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	23.00	48.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	122,000	1.1	7,660	△11.2	7,700	△11.8	4,880	△13.6	203.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年3月期2Q	24,262,227株	2022年3月期	24,262,227株
2023年3月期2Q	209,376株	2022年3月期	314,336株
2023年3月期2Q	23,982,851株	2022年3月期2Q	24,240,646株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.5「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2022年4月1日～2022年9月30日）におけるわが国経済は、ウィズコロナの新たな段階への移行が進む中で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待されておりましたが、世界的な金融引締め等に加え、物価上昇、供給面の制約等の下振れリスク、金融資本市場の変動など依然として先行き不透明な状態が続いております。

このような状況の下、当社グループは「いちねんで、いちばんの毎日を。」をスローガンに掲げ、最高の品質とサービスでより多くのお客様に満足をご提供し、適正な利潤の確保によりステークホルダーに報い、社会に貢献できる企業を目指しております。

基盤事業である自動車リース関連事業を中心に、ケミカル事業、パーキング事業、機械工具販売事業、合成樹脂事業を展開しており、これら既存事業の強化を進めながら、事業領域の枠にとらわれない新規事業への参入、規模拡大を目的とした積極的なM&A、海外展開にも挑戦しております。

当第2四半期連結累計期間の連結売上高は617億72百万円（対前年同期比4.6%増）、営業利益は49億16百万円（対前年同期比4.1%増）、経常利益は51億38百万円（対前年同期比7.2%増）、親会社株主に帰属する四半純利益は32億26百万円（対前年同期比5.3%増）となりました。

各セグメントの経営成績は、次のとおりであります。なお、下記のセグメント別売上高は、内部売上高消去前の金額であります。

<自動車リース関連事業>

リースにおきましては、リース契約車両は依然として小型化傾向にありますが、国内のリース車保有台数は堅調な伸びを維持しており、市場は緩やかながら拡大傾向にあります。当社グループは、地域密着のきめ細やかなサービスで競合他社との差別化を図りながら、比較的競合の少ない地方市場及び中小口規模の企業をメインターゲットとして新規販売を積極的に行うとともに、既存顧客との更なる取引深耕に努めました。

これらの結果、2022年9月末現在リース契約台数は91,551台（対前期末比1,578台増）となり、リース契約高は198億20百万円（対前年同期比4.1%増）、リース未経過契約残高は859億円（対前期末比2.2%増）となりました。

自動車メンテナンス受託におきましては、当社グループ独自の自動車整備工場ネットワークによる高品質なメンテナンスサービスを強みとしながら、更なる契約台数、契約残高の増加に努めた結果、メンテナンス受託契約台数は84,570台（対前期末比1,595台増）となり、メンテナンス受託契約高は32億31百万円（対前年同期比6.0%増）、メンテナンス未経過契約残高は87億34百万円（対前期末比1.2%増）となりました。

燃料販売におきましては、主に自動車用燃料給油カードにおいて、低燃費車の普及により需要が減少傾向にありますが、既存顧客へのサービス向上並びに新規顧客の獲得に注力いたしました。

販売面では、リース並びに自動車メンテナンス受託は契約台数が順調に推移いたしました。また、燃料販売も販売数量が順調に推移いたしました。

損益面では、主力である自動車リースの販売が増加したことに加え、車両処分の販売単価が上昇したことにより利益が増加いたしました。また、燃料販売の仕入価格が安定したことにより利益が増加いたしました。

この結果、売上高は297億59百万円（対前年同期比11.1%増）、セグメント利益は38億56百万円（対前年同期比36.0%増）となりました。

<ケミカル事業>

ケミカル事業におきましては、住みよい地球環境と人々の暮らしの向上に貢献するべく、商品開発力の強化及び品質向上に取り組むとともに、付加価値の高い商品の販売に注力いたしました。

販売面では、化学品関連の自動車整備工場向けケミカル製品及び機械工具商向けケミカル製品の販売並びに工業薬品関連の燃料添加剤の販売は順調に推移いたしました。一方、工業薬品関連の石炭添加剤の販売並びに一般消費者向けケミカル製品の販売は減少いたしました。

損益面では、急激な円安の進行及び原材料価格の上昇の影響により利益が減少いたしました。

この結果、売上高は57億17百万円（対前年同期比3.5%増）、セグメント利益は5億9百万円（対前年同期比19.9%減）となりました。

<パーキング事業>

パーキング事業におきましては、安全・安心・清潔で利用しやすい駐車場をお客様にご提供するべく、「One Park」のブランド名でコインパーキングや来客用駐車場を全国に展開しているほか、病院や官公庁及び商業施設に附帯する駐車場の運営管理も行っております。中長期的に安定した収益基盤を築くため、更なる駐車場数の拡大に努めた結果、2022年9月末現在駐車場管理件数は1,779件（対前期末比63件増）、管理台数は37,646台（対前期末比496台増）となりました。

販売面では、新規駐車場の開発が順調に進み、また、既存駐車場の継続的な収益改善活動の効果もあり、販売が増加いたしました。また、前連結会計年度に新たに連結子会社となった株式会社オートリが販売増加に寄与いたしました。

損益面では、販売増加の影響により利益が増加したことに加え、前連結会計年度に新たに連結子会社となった株式会社オートリが利益の増加に寄与いたしました。

この結果、売上高は33億76百万円（対前年同期比25.4%増）、セグメント利益は4億62百万円（前年同期は1億93百万円のセグメント利益）となりました。

<機械工具販売事業>

機械工具販売事業におきましては、プロ向けや個人向けの各種工具類、自動車部品、産業・建設機械部品など幅広い商材を取り扱っており、自社でインターネット通販も展開しております。更なる事業規模の拡大並びに収益性の向上を実現させるため、取扱アイテムの拡充、自社オリジナル製品の開発・販売の強化、商品調達コスト及び物流コストの低減に努めました。

販売面では、自動車部品及び産業資材並びに産業機械部品等の販売は順調に推移いたしました。空調工具及び計測工具の販売は減少いたしました。

損益面では、主力事業における販売減少の影響により利益が減少いたしました。

この結果、売上高は178億87百万円（対前年同期比1.9%増）、セグメント利益は3億50百万円（対前年同期比29.0%減）となりました。

<合成樹脂事業>

合成樹脂事業におきましては、遊技機部品の製造・販売を行う主力の遊技機部品事業を中心に、新規顧客の拡大及び新商品の開発を図り、同時に品質改善にも努めてまいりました。

販売面では、前期に遊技機の新基準機への移行に伴う入替需要が増加したことの反動により、遊技機メーカーへの合成樹脂製品の販売が大幅に減少いたしました。また、科学計測器の販売並びに半導体実装装置メーカー等へのセラミックヒーターの販売も減少いたしました。

損益面では、上記要因における販売減少の影響により利益が減少いたしました。

この結果、売上高は45億80百万円（対前年同期比32.7%減）、セグメント損失は2億35百万円（前年同期は5億96百万円のセグメント利益）となりました。

<その他>

その他事業の農業におきましては、経営を軌道に乗せるべく継続して栽培ノウハウの蓄積を進めるとともに、新しい販路の開拓及び6次産業化に向けた検討・研究等、収益化に向けた取り組みを行ってまいりました。

販売面では、農業において、農作物の販売数量が減少いたしました。また、販売単価は上昇いたしました。また、前連結会計年度に新たに連結子会社となった新光硝子工業株式会社及び新生ガラス株式会社が販売増加に寄与いたしました。

損益面では、農業において、高知県南国市に新たに開設した「南国農場」の開設費用等の経費が増加したことにより、前年同期比では損失が拡大いたしました。一方で前連結会計年度に新たに連結子会社となった新光硝子工業株式会社及び新生ガラス株式会社が利益の増加に寄与いたしました。

この結果、売上高は9億50百万円（前年同期は1億41百万円のセグメント売上高）、セグメント損失は37百万円（前年同期は44百万円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

＜資産の状況＞

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は750億16百万円となり、前連結会計年度末残高718億6百万円と比べて32億9百万円増加いたしました。これは「現金及び預金」の増加3億34百万円、「受取手形及び売掛金」の減少12億84百万円、「電子記録債権」の減少4億20百万円、ファイナンス・リース取引の契約増加による「リース投資資産」の増加14億74百万円、販売計画に基づく在庫確保等による「商品及び製品」の増加10億24百万円、「仕掛品」の増加2億32百万円、「原材料及び貯蔵品」の増加4億33百万円、自動車税等の納付による「前払費用」の増加9億54百万円、流動資産「その他」の増加3億47百万円が主な要因であります。

固定資産の残高は955億23百万円となり、前連結会計年度末残高966億38百万円と比べて11億14百万円減少いたしました。これは減価償却費がオペレーティング・リース取引の契約増加を上回ったことによる「貸貸資産」の減少10億23百万円が主な要因であります。

繰延資産の残高は52百万円となり、前連結会計年度末残高61百万円と比べて9百万円減少いたしました。

以上の結果、資産合計は当第2四半期連結会計期間末残高1,705億92百万円となり、前連結会計年度末残高1,685億7百万円と比べて20億84百万円増加いたしました。

＜負債の状況＞

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は503億85百万円となり、前連結会計年度末残高526億29百万円と比べて22億43百万円減少いたしました。これは「支払手形及び買掛金」の減少11億54百万円、「電子記録債務」の減少5億60百万円、「1年内返済予定の長期借入金」の増加7億4百万円、「未払法人税等」の減少7億48百万円、流動負債「その他」の減少5億27百万円が主な要因であります。

固定負債の残高は738億90百万円となり、前連結会計年度末残高722億4百万円と比べて16億85百万円増加いたしました。これは「長期借入金」の増加17億87百万円が主な要因であります。

以上の結果、負債合計は当第2四半期連結会計期間末残高1,242億76百万円となり、前連結会計年度末残高1,248億34百万円と比べて5億58百万円減少いたしました。

＜純資産の状況＞

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は463億16百万円となり、前連結会計年度末残高436億73百万円と比べて26億43百万円増加いたしました。これは「親会社株主に帰属する四半期純利益」の計上による「利益剰余金」の増加32億26百万円、配当金の支払による「利益剰余金」の減少5億50百万円、時価評価による「その他有価証券評価差額金」の減少54百万円が主な要因であります。

＜キャッシュ・フローの状況＞

当第2四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物の四半期末残高は、前連結会計年度末より2億42百万円増加し、111億33百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、△4億63百万円（前年同期は10億36百万円）となりました。これは主に、「税金等調整前四半期純利益」が50億26百万円になったこと、「減価償却費」が85億80百万円になったこと、「のれん償却額」が1億23百万円になったこと、「売上債権の増減額（△は増加）」が17億15百万円となったこと、「棚卸資産の増減額（△は増加）」が△15億63百万円になったこと、オペレーティング・リース取引の契約増加により「貸貸資産の純増減額（△は増加）」が△64億95百万円になったこと、「リース投資資産の純増減額（△は増加）」が△16億97百万円になったこと、「仕入債務の増減額（△は減少）」が△16億41百万円になったこと、「法人税等の支払額」が△28億24百万円になったこと、自動車税等の納付による前払費用の増加により「その他」が△17億30百万円になったことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、△11億75百万円（前年同期は△8億31百万円）となりました。これは主に、「有形及び無形固定資産の取得による支出」が△10億63百万円になったことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、18億51百万円（前年同期は8億4百万円）となりました。これは主に、「借入れによる収入」133億円が、「借入金の返済による支出」△108億58百万円、「社債の償還による支出」△1億30百万円及び「配当金の支払額」△5億50百万円を上回ったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績につきましては、現時点では、2022年8月1日に公表いたしました業績予想に変更はございません。
なお、引き続き今後の業績動向を踏まえ精査しており、修正の必要が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,038	11,373
受取手形及び売掛金	15,825	14,540
電子記録債権	4,441	4,021
リース・メンテナンス未収入金	2,497	2,613
リース投資資産	21,936	23,410
商品及び製品	8,173	9,197
仕掛品	869	1,101
原材料及び貯蔵品	1,442	1,876
前払費用	2,407	3,361
その他	3,218	3,565
貸倒引当金	△44	△47
流動資産合計	71,806	75,016
固定資産		
有形固定資産		
貸貸資産		
減価償却累計額	△75,494	△77,763
貸貸資産(純額)	60,881	59,858
土地	10,835	10,831
その他	29,126	29,674
減価償却累計額	△14,913	△15,497
その他(純額)	14,212	14,176
有形固定資産合計	85,930	84,866
無形固定資産		
のれん	947	823
その他	445	659
無形固定資産合計	1,392	1,483
投資その他の資産		
投資有価証券	4,690	4,586
長期前払費用	1,685	1,640
繰延税金資産	1,089	1,138
その他	1,967	1,904
貸倒引当金	△117	△95
投資その他の資産合計	9,316	9,174
固定資産合計	96,638	95,523
繰延資産	61	52
資産合計	168,507	170,592

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,542	12,388
電子記録債務	4,488	3,927
短期借入金	4,350	4,300
コマーシャル・ペーパー	3,500	3,500
1年内償還予定の社債	260	260
1年内返済予定の長期借入金	20,042	20,746
リース債務	12	11
未払法人税等	2,578	1,830
リース・メンテナンス前受金	491	485
賞与引当金	944	1,044
品質保証引当金	9	10
その他	2,409	1,881
流動負債合計	52,629	50,385
固定負債		
社債	16,490	16,360
長期借入金	52,386	54,174
リース債務	7	4
退職給付に係る負債	1,999	2,011
役員退職慰労引当金	220	186
資産除去債務	489	517
その他	610	637
固定負債合計	72,204	73,890
負債合計	124,834	124,276
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,529	2,529
資本剰余金	1,805	1,805
利益剰余金	38,201	40,860
自己株式	△368	△245
株主資本合計	42,166	44,949
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,338	1,284
繰延ヘッジ損益	16	16
為替換算調整勘定	72	72
退職給付に係る調整累計額	△20	△18
その他の包括利益累計額合計	1,407	1,354
新株予約権	98	11
純資産合計	43,673	46,316
負債純資産合計	168,507	170,592

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	59,047	61,772
売上原価	45,603	47,550
売上総利益	13,443	14,221
販売費及び一般管理費		
役員報酬	502	573
給料手当及び賞与	2,973	3,081
賞与引当金繰入額	745	797
退職給付費用	147	152
役員退職慰労引当金繰入額	14	15
貸倒引当金繰入額	△3	△1
品質保証引当金繰入額	3	1
のれん償却額	123	123
その他	4,216	4,562
販売費及び一般管理費合計	8,722	9,305
営業利益	4,721	4,916
営業外収益		
受取配当金	48	61
仕入割引	28	27
為替差益	0	124
その他	53	78
営業外収益合計	131	291
営業外費用		
支払利息	28	34
支払手数料	13	12
その他	18	23
営業外費用合計	60	70
経常利益	4,791	5,138
特別利益		
固定資産売却益	2	0
投資有価証券売却益	2	—
特別利益合計	4	0
特別損失		
固定資産除売却損	61	25
投資有価証券売却損	0	0
投資有価証券評価損	—	47
災害による損失	—	38
特別損失合計	61	111
税金等調整前四半期純利益	4,735	5,026
法人税、住民税及び事業税	1,927	1,844
法人税等調整額	△257	△44
法人税等合計	1,670	1,799
四半期純利益	3,064	3,226
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,064	3,226

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	3,064	3,226
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△112	△54
繰延ヘッジ損益	△1	△0
為替換算調整勘定	29	0
退職給付に係る調整額	1	1
その他の包括利益合計	△83	△52
四半期包括利益	2,981	3,173
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,981	3,173

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,735	5,026
減価償却費	8,353	8,580
のれん償却額	123	123
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△52	△4
受取利息及び受取配当金	△50	△62
支払利息	28	34
固定資産除売却損益(△は益)	59	20
売上債権の増減額(△は増加)	18	1,715
棚卸資産の増減額(△は増加)	△293	△1,563
リース投資資産の純増減額(△は増加)	△822	△1,697
賃貸資産の純増減額(△は増加)	△7,566	△6,495
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,800	△1,641
利息及び配当金の受取額	49	60
利息の支払額	△14	△6
法人税等の支払額	△608	△2,824
法人税等の還付額	172	1
その他	△1,295	△1,730
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,036	△463
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△841	△1,063
有形及び無形固定資産の売却による収入	5	5
固定資産の除却による支出	△41	△10
投資有価証券の取得による支出	△15	△21
投資有価証券の売却による収入	28	0
その他	33	△86
投資活動によるキャッシュ・フロー	△831	△1,175
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△4,000	△50
コマーシャル・ペーパーの純増減額(△は減少)	△2,000	—
長期借入れによる収入	14,400	13,300
長期借入金の返済による支出	△11,474	△10,808
社債の発行による収入	9,951	—
社債の償還による支出	△5,130	△130
リース債務の返済による支出	△4	△3
配当金の支払額	△485	△550
その他	△452	94
財務活動によるキャッシュ・フロー	804	1,851
現金及び現金同等物に係る換算差額	18	29
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,029	242
現金及び現金同等物の期首残高	11,984	10,890
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,013	11,133

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	自動車 リース関連 事業	ケミカル 事業	パーキング 事業	機械工具 販売事業	合成樹脂 事業	計				
売上高										
外部顧客への売上高	26,680	5,228	2,691	17,506	6,800	58,906	141	59,047	—	59,047
セグメント間の内部売上高又は振替高	101	292	—	40	6	441	0	441	△441	—
計	26,781	5,521	2,691	17,546	6,806	59,347	141	59,488	△441	59,047
セグメント利益又は損失(△)	2,834	636	193	493	596	4,755	△44	4,711	10	4,721

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、農産物の生産販売、不動産の賃貸及び管理等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	自動車 リース関連 事業	ケミカル 事業	パーキング 事業	機械工具 販売事業	合成樹脂 事業	計				
売上高										
外部顧客への売上高	29,656	5,396	3,376	17,815	4,576	60,822	949	61,772	—	61,772
セグメント間の内部売上高又は振替高	102	320	—	71	4	498	0	498	△498	—
計	29,759	5,717	3,376	17,887	4,580	61,320	950	62,270	△498	61,772
セグメント利益又は損失(△)	3,856	509	462	350	△235	4,943	△37	4,906	10	4,916

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ガラス加工製品の製造販売、農産物の生産販売、不動産の賃貸及び管理等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。